

公立大学法人神奈川県立保健福祉大学
令和3年度 業務実績評価書

令和4年9月

神奈川県公立大学法人
神奈川県立保健福祉大学評価委員会

目次

1	年度評価の基本方針	1
(1)	基本方針	1
(2)	評価区分	1
2	全体評価	2
3	大項目評価	4
(1)	大項目1「教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置」に関する評価	4
(2)	大項目2「業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」に関する評価	7
(3)	大項目3「財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置」に関する評価 ...	8
(4)	大項目4「その他業務運営に関する重要な目標を達成するための措置」に関する評価 ...	9
(5)	大項目5「自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置」に関する評価	10
4	評価委員会の概要	11
(1)	令和4年度神奈川県公立大学法人神奈川県立保健福祉大学評価委員会委員	11
(2)	評価委員会実施状況	11

神奈川県公立大学法人神奈川県立保健福祉大学評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、地方独立行政法人法第78条の2に基づき、次のとおり公立大学法人神奈川県立保健福祉大学（以下「保健福祉大学」という。）の令和3年度の業務実績に関する評価を実施した。

1 年度評価の基本方針

業務実績に関する評価は、「公立大学法人神奈川県立保健福祉大学の各事業年度の業務の実績に関する評価の実施基準」（平成30年9月20日決定）に基づき、次のとおり行う。

(1) 基本方針

- ア 中期目標の達成に向けて、法人の中期計画の事業の進捗状況を評定する。
- イ 県民への説明責任の観点から、評価を通じて、中期目標の達成状況や業務の実施状況を分かりやすく示す。
- ウ 法人の組織・業務運営等に関して改善すべき点を明らかにすることにより、法人運営の質的向上に資する。

(2) 評価区分

年度評価に当たっては、法人から提出された業務実績報告書等を基に、法人からのヒアリングを実施するなど調査・分析のうえ、業務の実績の全体について検証を行う。業務実績の検証は、年度計画に記載されている各項目の事業の進捗状況及び成果等について、できる限り客観的なデータにより適正に行う。

ア 項目別評価（小項目評価）

評価委員会は、項目（小項目）ごとに、法人の自己評価及び年度計画の目標設定の妥当性などを総合的に検証し、法人の自己評価と同じ5段階の区分により評価する。評価委員会による評価と法人の自己評価が異なる場合は、評価委員会が評価の判断理由等を示すとともに、必要に応じて、特筆すべき点や改善すべき点等があればコメントを付す。

イ 項目別評価（大項目評価）

評価委員会は、項目（大項目）ごとに、業務実績報告書及び小項目評価の結果を基に、業務実績の検証を踏まえ総合的に判断し、以下の5段階の区分により評価する。

- S：中期計画の達成に向けて特筆すべき優れた進捗状況にある。
- A：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
- B：中期計画の達成に向けて概ね順調な進捗状況にある。
- C：中期計画の達成のためには進捗がやや遅れている。
- D：中期計画の達成のためには進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。

ウ 全体評価

評価委員会は、全体評価について、業務実績の検証や項目別評価の結果を踏まえ、法人の中期計画の進捗状況全体について総合的に判断し、記述式で評価をする。また、必要があるときは、法人に対して業務運営の改善その他の勧告をすることができる。

2 全体評価

令和3年度は、全体として中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。

(項目別評価の結果)

- (1) 大項目1「教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置」
小項目28項目中4項目で年度計画を大幅に上回る実績・成果を上げているほか、24項目で年度計画に記載された事項がほぼ100%計画どおり実施されており、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況であることから、A評価が妥当であると判断した。
- (2) 大項目2「業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」
小項目3項目中3項目で年度計画に記載された事項がほぼ100%計画どおり実施されており、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況であることから、A評価が妥当であると判断した。
- (3) 大項目3「財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置」
小項目3項目中3項目で年度計画に記載された事項がほぼ100%計画どおり実施されており、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況であることから、A評価が妥当であると判断した。
- (4) 大項目4「その他業務運営に関する重要な目標を達成するための措置」
小項目4項目中4項目で年度計画に記載された事項がほぼ100%計画どおり実施されており、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況であることから、A評価が妥当であると判断した。
- (5) 大項目5「自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置」
小項目2項目中2項目で年度計画に記載された事項がほぼ100%計画どおり実施されており、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況であることから、A評価が妥当であると判断した。

全体評価	項目別評価				
	大項目	評価	小項目(評価基準)	項目数	
中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。	1	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	A 中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。	S(年度計画を大幅に上回る)	4
				A(ほぼ100%実施)	24
				B(80%程度以上)	0
				C(60~80%未満)	0
				D(60%未満)	0
				項目数 計	28
	2	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	A 中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。	S(年度計画を大幅に上回る)	0
				A(ほぼ100%実施)	3
				B(80%程度以上)	0
				C(60~80%未満)	0
				D(60%未満)	0
				項目数 計	3
	3	財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	A 中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。	S(年度計画を大幅に上回る)	0
				A(ほぼ100%実施)	3
				B(80%程度以上)	0
				C(60~80%未満)	0
				D(60%未満)	0
				項目数 計	3
	4	その他業務運営に関する重要な目標を達成するための措置	A 中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。	S(年度計画を大幅に上回る)	0
				A(ほぼ100%実施)	4
B(80%程度以上)				0	
C(60~80%未満)				0	
D(60%未満)				0	
項目数 計				4	
5	自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置	A 中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。	S(年度計画を大幅に上回る)	0	
			A(ほぼ100%実施)	2	
			B(80%程度以上)	0	
			C(60~80%未満)	0	
			D(60%未満)	0	
			項目数 計	2	

(業務実績の状況)

第一期中期計画の4年目である令和3年度は、令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものの、教職員による様々な努力により教育活動の質を維持し、保健、医療及び福祉の分野に関する総合的な能力を有する人材を育成した。また、実践教育センターでは職員等が感染予防活動への技術的支援に携わるほか、イノベーション政策研究センターでは県と連携しパンデミックの公衆衛生対策に係るプロジェクトを実施し、県の感染症対策に大いに貢献した。コロナ禍において教育活動と研究活動を継続し、3キャンパスの強みを積極的に生かした法人運営を進めている。

3 大項目評価

(1) 大項目1「教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置」に関する評価

(業務実績の状況)

就職希望者就職率(学部)は、令和2年度に引き続き100%を達成した。また、就職者の約70%が神奈川県内に就職しており、県立の大学としての使命を果たしている。国家試験合格率は、精神保健福祉士を除くすべての資格[※]で目標値100%を達成し、高く評価できる。

※ 看護師・保健師・助産師・管理栄養士・社会福祉士・介護福祉士・理学療法士・作業療法士

※ 精神保健福祉士は89.5% (目標100%)

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた教育活動について、学部における演習・実験・実技科目等の対面での授業において、複数教室で展開するなど感染拡大防止策を図った上で実施した。また、看護学科では病院実習が例年通り行えなかった令和2年度卒業生に対し、実践力を養成するための卒後フォローアップ研修を実施した。さらに4年生に対し卒前フォローアップ研修を実施しており、教育の質を最大限保証できるよう努力していると認められる。今後もオンライン授業と対面授業をうまく活用し、さらなる教育の質の向上を目指してほしい。

研究の質の向上について、イノベーション政策研究センターにおいて県が進める未病施策や保健医療データに関する取り組みに対し、知見を提供するなどした。

社会貢献については、オリンピック・パラリンピックへの対応により県職員の保健師が不足することから、県対策本部から依頼を受け、看護師・保健師資格を有する職員が応援業務に従事した。その他、神奈川コロナクラスター対策チームとして委嘱を受けるなど、県の感染症対策に貢献を果たした。

公開講座・市民大学開催回数は目標値の15回を大きく上回る33回となった。コロナ禍においてもオンラインを利用するなど開催方法を工夫して積極的に取り組み、特にヒューマンサービス公開講座ではオンデマンド配信で1,500回近い視聴数を記録した。知の拠点としての役割を果たしていると評価できる。

(評価結果と判断理由)

令和3年度業務実績報告書及び小項目評価の結果を基に、業務実績の検証を踏まえ総合的に判断し、A評価(中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある)とする。

「教育に関する目標を達成するためとるべき措置」、「学生への支援に関する目標を達成するためとるべき措置」、「研究に関する目標を達成するためとるべき措置」及び「社会貢献に関する目標を達成するためとるべき措置」の4つの面における取組をそれぞれ検証した。

小項目28項目中4項目で年度計画を大幅に上回る実績・成果を上げているほか、24項目で年度計画に記載された事項がほぼ100%計画どおり実施されており、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況であることから、A評価が妥当であると判断した。

(小項目評価の主な内容)

・年度計画を大幅に上回る実績・成果を上げている主な事項 (S評価)

<小項目27> (社会貢献のうち、産学官の連携に関する項目) 熱心な姿勢で取り組んでいる点を評価する。

・年度計画を達成している主な事項 (A評価)

<小項目2> 新型コロナウイルス感染症の影響によるオンライン授業への切り替えや病院実習の不足等にも臨機応変に対応し、きめ細やかな指導により国家試験の合格率100%を達成できた点、さらに、シミュレーションラボの導入といった新たな試みに挑戦していることを評価する。

<小項目3> 感染拡大状況を予測しながらのオンライン/対面の使い分けや、学習効果にも影響する学生間のコミュニケーション不足への対応、臨地実習の困難さもある中、着実に年度計画を実行し、また、国家試験の合格率100%を達成している点を評価する。

<小項目4> 感染拡大により一部実習を学内実習に切り替え、また、感染拡大防止と教育のあり方について教員間あるいは実習指導者との意見交換や、実務経験豊富な教員による対人援助現場で有用な知識・技術の習得を進めている点を評価する。

<小項目5> 感染対策を進めながら新カリキュラムへの対応を進め、臨床実習指導者との協議や新規実習施設の確保等、着実に年度計画を実行している。また、リハビリテーション教育評価機構やWFOTからの認定等、外部評価を活用されている点を評価する。

<小項目6> 教育内容の点検を行うとともに、多様な専門性を活かしながら科目担当者を変更する等、継続的に見直しが行われている。またオンラインの特性を活かして遠方から講義頂く等、積極的に取り組んでいる。学部教育において、様々な工夫により教育の質の向上につながったことを評価する。

<小項目7> ワーキンググループの設置により対処すべき課題の洗い出しを行う等、前向きなPDCAの取組みを評価する。検討の結果については、早期に実践していくことを期待する。

<小項目9> コロナ禍においても着実にカリキュラムの見直しや研究活動部会の立ち上げ等を進めている。また、感染管理認定看護師教育課程について定員数を拡大する等、社会のニーズに積極的に応えている点を評価する。

<小項目11> 各種制度設計のほか、カリキュラム評価も行い、特にヘルスイノベーション研究科はスピード感をもった立ち上がりができている。

<小項目12> 新たに3部会を設置し、組織横断的にカリキュラム内容の検討を行う等の積極的な取組みを評価する。

<小項目13> 成績優秀者について適正に評価された。

<小項目16> 常勤職員を充足できていないものの、クロスアポイントメント制度等の活用により、教育に穴をあけることなく進めている点は評価する。一方で、勤怠管理システムを導入したことで常勤教員の設置を満たせていない状況に起因する常勤教員への負荷の実態が明かになる面もあろうかと思われる。これに対し適切な対応を期待する。

- <小項目17>教育備品の更新等も着実に進捗し、Wi-Fi環境の整備とともにzoomやmanabaの導入によりオンライン環境が整備され、また、図書館の利用についてもラーニング・commonsの導入を検討する等、積極的な対応が検討されている。図書館利用者の減少に対し、ニーズを踏まえたサービス提供が模索され、実践されているものである。
- <小項目22>オンライン等で学生への学習・生活支援が行われており評価できる。
- <小項目23>オンラインの利点をよく活用し、成果が上がっている点を評価する。
- <小項目25>研究活動を推進する体制の整備に積極的に取り組んでいる。
- <小項目26>熱心な姿勢で取り組んでいる点を評価する。
- <小項目28>オンライン授業を積極的に活用し、国際交流や海外の高度な知見を取り入れる姿勢を評価する。粘り強く、学生のグローバルマインド醸成に取り組んでもらいたい。

(評価にあたっての意見、指摘等)

- <小項目6>(学部教育のうち人間総合科に関する項目)法人から学生が哲学的に“人”を考える機会が少なく思え、そこをどう補うかが課題かもしれないとの回答があった。基本理念であるヒューマンサービスの理解等のため、今後の教授法の深化に期待する。
- <小項目13>新型コロナウイルス感染症の影響による成績評価方法の変更、また、それに伴う評価結果の変化については、課題を分析し、その対応について引き続き検討することが必要である。
- <小項目16>ヒューマンサービスを基本理念とし、寄り添ったきめ細やかな教育は特色ではあるものの、効率性/未病/ワークライフバランス/健康経営といった観点とのバランスについての議論も必要と考える。
- <小項目18>オンライン環境を活用しながら、アクティブラーニングの次の段階の教授法を模索していただきたい。また、子どもや老人と接触したことのない今の学生の世代に向けた教授法、コロナ禍でコミュニケーションの機会が減ってしまった学生に向けた教授法についても模索してもらいたい。
- <小項目19>学部受験倍率が急激に低下しており、18歳人口の減少以外の要因として、県内に他の公立大学が開設されたことやコロナ禍による保健医療福祉職のイメージの変化等、経営環境は厳しくなっている。今後、本学で学ぶことの意義や独自性を再度丁寧に発信していくことを期待する。
- <小項目24>学術論文等の実績について、著書数などの数値だけでなく、質の評価を実施することが望ましい。
- <小項目25>科研費申請件数は大学の研究活性度を測るバロメーターとなる。科研費申請件数の増加に期待する。
- 今後、保健福祉分野の人材不足への対応としてAIや機械化が進むという意見もあるが、そのような未来におけるヒューマンサービスの価値というものをより発信することで、法人の教育の価値が県民の皆様にもよく伝わるであろう。

(2) 大項目2「業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」に関する評価

(業務実績の状況)

クロスアポイントメント制度を活用し、他大学や医療機関の第一線で活躍する人材を教員に迎えている。

(評価結果と判断理由)

令和3年度業務実績報告書及び小項目評価の結果を基に、業務実績の検証を踏まえ総合的に判断し、A評価とする。

「運営体制の改善に関する目標を達成するためとるべき措置」、「人事の適正化に関する目標を達成するためとるべき措置」及び「事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するためとるべき措置」の3つの面における取組をそれぞれ検証したところ、小項目3項目中3項目で年度計画に記載された事項がほぼ100%計画どおり実施されており、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況であることから、A評価が妥当であると判断した。

(小項目評価の主な内容)

・年度計画を達成している主な事項（A評価）

＜小項目30＞クロスアポイントメント制度の活用等により、常勤職員を充足できていない状況にも教育の質を落とさず対応できた点を評価する。また、クロスアポイントメント制度により、より専門性の高い人材を招聘する尽力についても評価する。

＜小項目31＞複数年契約を採用する等、効率化を進めた業務運営が実現している。

(3) 大項目3「財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置」に関する評価

(業務実績の状況)

科学研究費助成事業の採択件数を増やすため、FDを実施するなど積極的に取り組んでいる。

(評価結果と判断理由)

令和3年度業務実績報告書及び小項目評価の結果を基に、業務実績の検証を踏まえ総合的に判断し、A評価とする。

「自己収入の増加に関する目標を達成するためとるべき措置」、「経費の抑制に関する目標を達成するためとるべき措置」及び「資産の運用管理に関する目標を達成するためとるべき措置」の3つの面における取組をそれぞれ検証したところ、小項目3項目中3項目で年度計画に記載された事項がほぼ100%計画どおり実施されており、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況であることから、A評価が妥当であると判断した。

(小項目評価の主な内容)

・年度計画を達成している主な事項（A評価）

<小項目32>外部資金獲得に向けた各種制度の創設や、令和2年度には科研費の採択率がランクインする等、積極的に取り組んでいる。

<小項目33>複数年契約を採用する等の効率化、経費削減及び環境負荷低減の継続的な推進を評価する。

(評価にあたっての意見、指摘等)

<小項目32>今後、18歳人口の減少に対応する戦略を立案することも重要であると考えます。

(4) 大項目4「その他業務運営に関する重要な目標を達成するための措置」に関する評価

(業務実績の状況)

大学院のWebサイトを修正するほか、実践教育センターのパンフレットをリニューアルし、広報機能の強化を図った。

(評価結果と判断理由)

令和3年度業務実績報告書及び小項目評価の結果を基に、業務実績の検証を踏まえ総合的に判断し、A評価とする。

「施設設備の整備、活用等に関する目標を達成するためとるべき措置」、「安全管理に関する目標を達成するためとるべき措置」、「情報公開等の推進に関する目標を達成するためとるべき措置」及び「社会的責任に関する目標を達成するためとるべき措置」の4つの面における取組をそれぞれ検証したところ、小項目4項目中4項目で年度計画に記載された事項がほぼ100%計画どおり実施されており、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況であることから、A評価が妥当であると判断した。

(小項目評価の主な内容)

・年度計画を達成している主な事項（A評価）

<小項目35>地域開放等の有効活用方法について、引き続きの検討を期待する。

<小項目36>新型コロナウイルス感染症の影響を考慮した訓練が実施されている点を評価する。

<小項目37>ユーザー目線を重視したウェブサイトやSNSを通じた積極的な情報発信姿勢を評価する。

<小項目38>研修等が着実に実施されているが、形式的な研修実施にとどめることなく、実際の浸透度合を重視して、今後の取組を進めてもらいたい。

(評価にあたっての意見、指摘等)

<小項目36>年度計画において「適宜マニュアル等の検証を行う」とあるが、検証の実施状況が読み取れない。時の経過とともに実態と乖離していないか継続的な見直しが必要である。また、個人情報保護に係る講習会について、学生の受講が100%であったことが読み取れない。一方で、教員に対する研修は受講推奨のみとのことだが、研修実施のみならず個人情報保護の重要性が浸透することが重要であるため、丁寧な実施が必要である。

(5) 大項目5「自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置」に関する評価

(業務実績の状況)

定期的に自己評価専門部会、自己評価審査会を開催し、業務の進捗管理を行っている。

(評価結果と判断理由)

令和3年度業務実績報告書及び小項目評価の結果を基に、業務実績の検証を踏まえ総合的に判断し、A評価とする。

「自己点検及び評価の充実に関する目標を達成するためとるべき措置」及び「自己点検及び評価の状況に関する情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置」の2つの面における取組をそれぞれ検証したところ、小項目2項目のうち2項目で年度計画に記載された事項がほぼ100%計画どおり実施されており、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況であることから、A評価が妥当であると判断した。

(小項目評価の主な内容)

・年度計画を達成している主な事項（A評価）

＜小項目39＞自己点検や外部評価の結果を前向きかつ真摯に活用する姿勢を評価する。

＜小項目40＞法人としてPDCAに取り組んでいることが良く読み取れる記載内容となっており、県民の皆様をはじめとするステークホルダーに、積極的に課題の解決に取り組む、成長し、また、社会のニーズに向き合っている様が説明されるようになってきた。

4 評価委員会の概要

- (1) 令和4年度神奈川県公立大学法人神奈川県立保健福祉大学評価委員会委員
- | | | |
|------|-------|--------------------------|
| 委員長 | 梅原 出 | (国立大学法人横浜国立大学学長) |
| 副委員長 | 鹿島 勇 | (神奈川歯科大学理事長) |
| 委員 | 鈴木 智子 | (公認会計士) |
| 委員 | 竹村 克二 | (公益社団法人神奈川県医師会副会長) |
| 委員 | 長野 広敬 | (公益社団法人神奈川県看護協会会長) |
| 委員 | 山田 晃久 | (株式会社山田債権回収管理総合事務所代表取締役) |

(2) 評価委員会実施状況

- 第一回 令和4年7月13日(水)
 - ・令和3年度業務実績報告書について
 - ・第一期中期目標期間(見込)における業務実績報告書について
 - ・財務諸表等・利益処分案について

- 第二回 令和4年8月3日(水) ※web開催
 - ・令和3年度業務実績評価書(案)について
 - ・第一期中期目標期間(見込み)における業務実績評価書(案)について
 - ・財務諸表等・利益処分案に対する意見書について